

事業名 につこりん☺ミニとパパの時間

事業主体 名称：特定非営利活動法人ママほっとサロン

事業実施場所 住所：和気郡和気町衣笠 603-1

～事業を始めるにあたって～

(地域の現状・課題・目標など) ※実績報告書(様式6)②目的、③概要・方法

<現状>

令和4年度、5年度の備前県民局地域づくり支援事業を通じて、18歳未満の子どもたちが、様々な困難な状況下で育っていることが分かった。特にハッピー♥サイクル(フードバンクと子育て相談事業)では、保護者から経済的な困窮の訴えに加え、ひとり親での生活や育児の困難さ、ゴミが家屋内に充満、夫婦関係が不安定、母親の病気、仕事が続かない、非正規雇用、多子家庭での育児困難感、中卒で就職先が決まらないなどの困りごとを耳にすることがあった。

また、父親が産後休暇や育児休暇を取得しても、基本的な家事技術を身に付けていない、乳幼児とかかわる経験がないなどの理由から家庭内にただ居だけの存在であったり、赤ちゃんとかかわりが分からないが母親からは世話をするように求められつらくなったり、夫婦の育児感が異なり関係が悪化したりすることがあったことを聞くことがあった。

<事業を実施する理由>

保護者の困りごとを聴き、保護者を通じて子どもへの食品や生活用品への支援はできるが、子どもへの間接的な支援に留まっている。子どものニーズに合わせた支援は、直接、子どもたちから生活状況や思いを聴くことが必要であると感じた。また、近所で子どもたちが遊ぶ声が聞こえてくる。子どもたちにとって学校や家庭ではない地域の中に、人と繋がる温かな居場所があると更に安心して過ごせるのではないかと考えたことがにつこりん☺ミニを実施する理由である。

また、父親が育児や家事技術を学び、子どもとかかわる経験をすることや同じ父親と思いを共有することで安心して育児ができるきっかけが必要であると感じたことがパパの時間を実施する理由である。

<目的>

「につこりん☺ミニ」…①月1回、子どもにとって生活の延長線上にある身近な居場所、身近な大人、安らぎの場所となる子どもの居場所事業「につこりん☺ミニ」を行い、子どもが自分らしく居られる時間を過ごし、心身ともに安定した状態の維持を図る。

②本事業を通じて、子どもと大人の信頼関係を構築し子どもの思いを傾聴する。

③アウトリーチによる、養育環境の改善支援、外出が困難な子育て親子への伴走型支援を行い、個から他者との関係構築により子どもの育つ社会が広がる。

①～③の目的を持って本事業を実施したいと考える。

「パパの時間」…父親が、主体的に育児ができるよう自信が持てるきっかけとなる。父親同士が出会い、家庭や子育ての思いを共有することで父親が孤独ではないことを感じられる。につこりん☺ミニに参加する我が子とは異なる子どもとかかわる中で気づきが生まれ、自身の子育てに還元できる。

<概要・方法>

「につこりん☺ミニ」

①対象者：小学生とその兄弟のいる家庭、ハッピー♥サイクル(フードバンクと子育て相談事業以下ハッピー♥

サイクルと記載)に登録している家庭

*ハッピー♥サイクル事業は、18歳未満のお子さんを子育て中で経済的に不安があるご家庭へ食品や日用品などを無料で提供し、それをきっかけに子育ての困りごとの相談に応じる事業。

②実施方法：軽食調理・工作・手芸・ボードゲーム・読書などしたいことをとことんできる環境を整え、人とつながり安心できる温かな居場所をつくる。月1回の継続性を持った事業を実施することで居場所としての周知を図り、学校でも家庭でもない第3の居場所としてリラックスして過ごせる場を提供する。利用時にハッピー♥サイクルの品物を提供する。子どもの声を傾聴する。子どもと信頼関係を深めるためにコミュニケーションを図ることを意識的に行う。

③募集方法等：小学校へ毎月チラシを配布した。SNSやハッピー♥サイクル公式アカウントの登録者へ情報発信は年間スケジュールを1回配信。

「パパの時間」

①対象：産後休暇・育児休暇中を含む就学前の子どもを持つ父親。

②実施方法：ゲストティーチャーを迎え、育児についての学びや軽食調理実習ができる環境を整え、父親同士がつながり安心できる温かな居場所をつくる。調理実習では、にっこりん☺ミニの小学生と共に調理する。月1回の継続性を持った事業を実施することで父親の居場所としての周知を図り、職場でも家庭でもない第3の居場所としてリラックスして過ごせる場を提供する。父親の声を傾聴する。父親の困りごとについて解決に向けて共に考える。

③募集方法等：SNSにて情報掲載。和気子育て支援センター、江西桜こども園なかよしひろば、万富子ども広場、NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん、NPO法人備前プレーパークの会にてチラシ配布。

～事業実施内容～

「にっこりん☺ミニ」

<第1回>

①事業名 にっこりん☺ミニ打ち合わせ会

開催日	時間	場所	参加者数					
			参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.7.10	15:00～16:30	団体事務所	4	4	0	0	4	1
実施内容		活動の成果			今後の課題			
・にっこりん☺ミニとパパの時間についての事業目的・内容について説明し、役割分担について打ち合わせた。		・事業のイメージを共有し、8/7の内容を煮詰めることができた。 ・自分ができそうな業務については積極的に取り組む気持ちを各々が持っていた。			・具体的に事業を進めるための連絡調整をしていく必要がある。 ・業務に追われて、子どもの気持ちを聴くことを忘れないようにする。			

<第2回>

①事業名 にっこりん☺ミニ

開催日	時間	場所	参加者数					
			参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.8.7		本荘地区公民	18	15	36	3	54	5

15:00~18:00	館					
実施内容		活動の成果		今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・おえかき・折り紙・絵本・ボードゲーム等の遊びコーナーを設置。 ・かき氷作りコーナー設置。 ・餃子の王将のお弁当配布。 ・ハッピーサイクルの品物提供。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとして好きな遊びをし、思い思いの時間を過ごすことができた。 ・かき氷が好評で、大人も子どもも笑顔で食べていた。 ・参加者同士で自然と交流が生まれていた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと大人、それぞれへの声掛け・傾聴を行っていく必要がある。 		



<第3回>

①事業名 にっこりん☺ミニ

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.9.4	本荘地区公民館	37	15+α	28+α	1	34+α	5
15:00~18:00	館						
実施内容		活動の成果		今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・おえかき・折り紙・絵本・ボードゲーム等の遊びコーナー、赤ちゃんコーナー、また新たに「まなびのコーナー」を設置。 ・かき氷づくり。 ・ハッピーサイクル登録者へのお米配布。 		<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんから小学生まで幅広い年代の子たちに自然に交流が生まれていた。 ・まなびのコーナーでは、宿題に取り組む意欲的な姿が見られた。 ・会場に出たり入ったり、外でも遊んだりしながら、この場所をベースとして遊ぶことができていた。 ・かき氷は今回も大好評だった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・活動の認知度向上。 ・来てくれた子どもたちとの信頼関係の構築、一人ひとりへの声掛け・会話。 			



<第4回>

① 事業名 につこりん☺ミニ

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.10.2	本荘地区館	29	13	35	3	51	5
15:00~18:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・おえかき・折り紙・絵本・手しごと、ボードゲーム、赤ちゃんコーナー、まなびのコーナーの設置。 ・風船と絵具を使った風船アートコーナーの設置。 ・自分でおにぎりが握れるコーナーの設置、おにぎり・味噌汁の配布。 ・児童民生委員さんの協力が得られた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・場に馴染み、リラックスしながら思い思いの時間を過ごす姿が見られた。 ・祖父母や保護者も多数参加し、ゆったりとした姿が見られ、活動の認知が広がっていると感じられる。 ・風船アートが楽しかった、おにぎりが美味しかったとの声が多数あった。 ・放課後に遊べる場があって嬉しいとの声も聞かれた。 			<ul style="list-style-type: none"> ・活動の認知度向上。 ・来てくれた子どもたちとの信頼関係の構築。 ・につこりん☺ミニの環境設定と食事の準備を同時進行で実施する場合のマンパワー不足。ボランティアなど協力者を増やしていく。 ・学童保育の子どもへの参加希望への対応。 		



<第5回>

① 事業名 につこりん☺ミニ

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.11.6	本荘地区館	17	9	20	3	32	5
15:00~18:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・おえかき・粘土、絵本・レゴ、ボードゲーム、赤ちゃんコーナー、まなびのコーナーの設置。 		<ul style="list-style-type: none"> ・おにぎりを握るのが初めてという子がおり、自分一人で作れるという達成感を得られた様子。茶碗洗いも主体的に 			<ul style="list-style-type: none"> ・継続性のある環境設定（各コーナーに合わせた机・椅子の準備・子どもたちが自発的に遊べる仕組みづくり）。 ・地区館外に出て遊ぶ子どもたちへの 		

<ul style="list-style-type: none"> ・自分でおにぎりが握れるコーナーの設置、おにぎり・味噌汁の配布。 ・使用済み茶碗 洗い場の設置と子どもへの声掛け。 	<p>取り組む様子が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動が少しずつ定着しており、楽しみにしていたという声が多く聞かれた。 ・自分の好きな遊びや宿題をしたり、外と行き来しながら遊んだり、安心して過ごしている様子が見られた。 	<p>目の配り方・必要な声掛け。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の認知度向上と、利用者が気軽に足を運べる環境づくり。
--	--	--



<第6回>

①事業名 につこりん☺ミニ

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.12.4	本荘地区館	33	14	47	3	64	5
15:00~18:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・おえかき・粘土・絵本・レゴ・ボードゲーム・赤ちゃんコーナー・まなびのコーナーの設置。 ・食育レクチャー&自分でホットケーキ作り。 ・ホットケーキの配布、フルーツ・シロップなどを自分でトッピング。 ・ハッピー♥サイクルにて、スターバックスギフトの配布。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分でトッピングできるのが、とても楽しそうな様子だった。また自分で作ったオリジナルホットケーキを食べる様子は、いつもよりも笑顔があふれているように見受けられた。 ・継続し参加している子が増えてきているためか、友達同士声を掛け合いながら遊んでいたりと各々が安心して過ごしている様子が伺えた。 			<ul style="list-style-type: none"> ・継続性のある環境設定（各コーナーに合わせた机・椅子の準備・子どもたちが自発的に遊べる仕組みづくり）。 ・保護者の方でこういった場を求めている方がいることが分かったため、引き続き安心して利用してもらえるような信頼関係の構築。 		



<第7回>

① 事業名 にっこりん😊ミニ

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R7.1.8	本荘地区館	30	7	35	2	44	5
15:00~18:00							
実施内容		活動の成果		今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・おえかき・粘土・絵本・レゴ・ボードゲーム・赤ちゃんコーナー・まなびのコーナーの設置。 ・お餅アレンジのレクチャー及び調理実習。 ・お餅を焼くコーナー・おにぎりコーナーの設置。 		<ul style="list-style-type: none"> ・にっこりん😊ミニという時間の中では、友達同士でおやつを食べるのが当たり前というような自然な様子で、参加者がお餅を囲んでいる様子がうかがえた。 ・お腹を満たしにくる人、遊びにくる人、ゆったりしにくる保護者、と回数を重ねるごとにそれぞれが自分の過ごしやすい形を見つけ参加している様子だった。また遊び道具なども定着しつつあり、前回楽しかったおもちゃでまた友達同士で遊ぶなど継続性のある場になっている様子。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地区館外に出て遊ぶ子どもたちの状況把握をどこまで行うか検討する。 ・本事業の過程で子どもたち同士楽しく時間を過ごせているか、万が一トラブルなどがあった際も、子どもたちの表情や様子から気が付けるよう、意識して子どもたちへ声掛けや観察等を行う。そして引き続き、子どもたちからも安心して話してもらえりような関係構築を目指す。 			



<第8回>

① 事業名 にっこりん😊ミニ

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R7.2.5	本荘地区館	37	14	43	6	63	6
15:00~18:00							
実施内容		活動の成果		今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・おえかき・粘土・絵本・レ 		<ul style="list-style-type: none"> ・友達に誘われて初めて来た 		<ul style="list-style-type: none"> ・地区館外に出て遊ぶ子どもたちの状 			

<p>ゴ・ボードゲーム・まなびのコーナーの設置。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳パックを使った小物入れコーナーの設置。 ・カレー、自分で目玉焼きづくりコーナー。 ・ハッピー♥サイクルにてペットボトルの水・ゼリーの配布。 	<p>子ども多く、平日に待ち合わせして子どもたちで遊ぶことができ、月1の楽しみになっているという声が聞かれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレーは人気で多くの子がお代わりをし、保護者からも助かるといった声が聞かれた。 ・自転車をきちんと置き、回数を重ねる毎にマナーも良くなってきた。 	<p>況把握。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営スタッフ内での情報共有の徹底、開始前のミーティング実施。 ・子どもたちの声に耳を傾ける、お互いの顔と名前が分かる関係づくりを継続する。
---	--	---



「パパの時間」

<第1回>

① 事業名 パパの時間

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.8.7	本荘地区公民館	3	3	0	0	3	1
14:30~16:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<p>・「あかちゃんの気持ち」について知ろうというテーマで、資料を基にお互いの感じたことを伝え合った。</p>		<p>・初めての育児をする父親にとって、先輩の話を聞いたり気持ちを分かってもらえたりすることで、安心できる機</p>			<p>・子どもと一緒に参加したいとい、子どもと一緒に参加できるものがないという意見があり、ニーズに合わせた事業を考えることが必要。</p>		

<ul style="list-style-type: none"> ・普段の赤ちゃんとのやり取りの中で、「気持ちが分かって楽しいこと」「気持ちがよく分からない」と感じることを出し合い共有した。 ・にっこりん😊ミニにてかき氷を食べながら参加者同士が話をしたり、子どもの様子を見たりする機会をつくった。 	<p>会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児の経験者は、上のお子さんの赤ちゃん時代を思い出したり改めて自分の子育てを考える時間となった。 ・言葉を話さない赤ちゃんのことを想像し、今後のかかわりに役立てたいという気持ちを持たれていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて育児をする父親にとって、何でも話せ受け止めてもらえる先輩の父親の存在は貴重であり、その繋がりができる仕組みを考える必要がある。
--	--	---



<第2回>

① 事業名 パパの時間

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.9.4	本荘地区公民館	3	3	0	1	4	2 (うち1は講師井上栄養士)
14:30~16:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・「大人の料理からの取り分け離乳食」というテーマで、肉じゃが、トマトの炊き込みごはんを、栄養士の指導のもと 		<ul style="list-style-type: none"> ・ネットの情報ではなく、調理師の方から直接レクチャーを受けられたことで、今後の家庭での調理により前向 			<ul style="list-style-type: none"> ・2回目の今回は、3名中2名が初参加で全員が初対面だった。仕事などの都合もあり毎回参加できるわけではなさそうなので、参加率に波がある中で、どの 		

<p>調理した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近のお子さんの食に関する悩みなどを参加者同士で共有し、栄養士に助言をしても良かった。 ・にっこりん😊ミニにてかき氷を食べながら参加者同士が話をしたり、子どもの様子を見たりする機会をつくった。 	<p>きな気持ちを持てた様子だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者のお子さんの年齢がそれぞれ異なっていたので、幅広い発達段階に応じた食の課題や対処法を共有することができた。 ・父親同士がリラックスしながら交流し、育児に関する情報交換の場となった。 	<p>ようにコミュニティ化していくか施策を考える必要がある。</p>
---	--	------------------------------------



<第3回>

① 事業名 パパの時間

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.10.2	本荘地区公民館	2	2	0	0	2	2 (うち1は絵本専門士畑上さん)
14:30~16:30							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<p>・「乳幼児期に会う絵本のおはなし」というテーマで、絵本専門誌の士から、絵本と一緒に読むことの意義や、読み</p>		<p>・絵本を読むことがなんとなく良いことだとは分かっていたが、今回のお話でエビデンスと共に具体的なやり方</p>			<p>・各回に学んだ内容がその場限りで終わってしまわないように、定期的にその後の様子を共有しあったり、振り返りをしたりするなど、フォロー体制にも意識を</p>		

<p>聞かせの方法等について話を聞いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせについて、普段家で取り組んでいることや、困っていること、聞いてみたいことについて共有した。 ・にっこりん😊ミニにておにぎりを食べながら、子どもの様子を見るだけでなく、実際にコミュニケーションを取った。 	<p>を聞くことで、絵本に対する理解がより深まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた絵本の選び方などを知ること、この先の子どもの関わり方に見通しを持つことができた。 ・前回に続いて参加した人同士で、初見のときよりもさらに関係性を深めることができた。 	<p>向ける必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者がなかなか集まらないので、そもそも情報が届いていないのか、情報は届いているけど参加ハードルがあるのかなど、分析をした上で広報を工夫する必要がある。
---	---	--



<第4回>

① 事業名 パパの時間

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.11.6	本荘地区公民館	3	3	1	1	4	1
14:30~16:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
・「乳幼児の遊びとおもちゃ～子供の遊びは娯楽じゃないよ～」というテーマで、子どもたちが遊びで獲得している		・今回は1歳の子どもが参加したので、実際に子どもが遊ぶ様子を観察し、知識と結びつけながら効果的に学びを			・出産を間近に控えた参加者の方がいたので、出産後も参加しやすいような環境づくりやフォロー体制を意識する必要がある。		

<p>力、乳幼児の発達にとって大切な遊び、おすすめのおもちゃ紹介などについて話を聞いた。</p> <p>・にっこりん😊ミニにておにぎりを食べながら、子どもの様子を見るだけでなく、実際にコミュニケーションを取ったりした。</p>	<p>深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ただおもちゃを買い与えるのではなく、子どもが何をしたいか？どんな行動が好きか？などを観察することが大事」「秩序を壊すという遊び方があることを知って、怒らずに見ていきたい」といった参加者の意識の変化が生まれた。 ・初参加の方が2人いて、パパ同士のつながりを生むことができた。 	
---	---	--



<第5回>

① 事業名 パパの時間

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.12.4	本荘地区公民館	2	2	0	5	6	2 (うち1は講師井上栄養士)
15:30~17:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<p>・「食を通じて楽しむホットケーキづくり～共食について学ぼう～」というテーマで、栄養士の方から共食の意味や意</p>		<p>・普段はあまり意識することはないが、心が元気になる、食欲が増す、相手の気持ちを大切にできるといった共食</p>			<p>・体験重視・子どもたちも一緒に参加するプログラムの性質上、パパ同士の交流の時間が以前に比べるとやや少なかったため、バランスを意識する必要があ</p>		

<p>義について、子どもたちと一緒に話を聞いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に子どもたちと一緒にホットケーキ作りを行い、共食を体験した。 	<p>の意義を改めて知る機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験中心の時間だったので、座学での学びとはまた違った新鮮さがあった。 ・子どもたちと一緒に活動する時間が多く取れて、子どもと関わることへの自信につながった。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの子どもたちの帰りの時間を把握したり、洗い物を同時進行で進めないといけなかったり、体験重視のプログラムや子どもたちが一緒に参加することによる運営面での複雑さが生じた。 ・前回同様に参加者数が少なめだったので、引き続き広報活動に注力する必要がある。
--	--	---



<第6回>

① 事業名 パパの時間

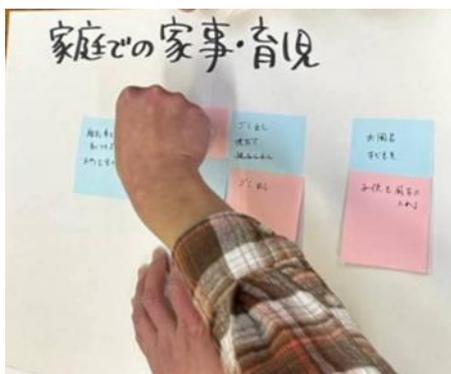
開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R7.1.8	本荘地区公民館	2	2	0	2	4	2 (うち1は講師井上栄養士)
14:30~16:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<p>・「おもちのアレンジクッキング」というテーマで、栄養士の方からお雑煮やお餅をお正月に食べることの意義について、子どもたちと一緒に話を聞いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に子どもたちと一緒にお餅を使ったピザを作った。 ・作ったピザを食べながら、子どもやパパ同士の交流を楽しんだ。 		<p>・あまり意識することのなかったお雑煮の意味や文化について、子どもたちと一緒に学ぶことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回一緒に調理した子どもと再会することができて、関係性をさらに深めることができた。 ・赤ちゃんが生まれたばかりのパパの参加者がおり、先輩パパとの交流・情報交換をじっくりできた。気分転換にもなった様子だった。 			<p>・テーマに関わらず、それぞれの参加者が話したい・相談したいテーマをラフに話せる場があってもいいのかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者募集の広報の強化。 		



<第7回>

①事業名 パパの時間

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R7.2.5	本荘地区公民館	2	2	0	0	2	1
14:30~16:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<p>・「ワーク・ライフ・バランスについて考えよう」というテーマで参加型のプログラムを実施。</p> <p>・絵本「いってらっしゃーい いってきまーす」神沢利子さく、林明子えの読み聞かせを実施。共働きの夫婦と保育園での子どもの姿をイメージできるようにした。</p> <p>・終了後、カレーライスをにっこりん☺️ミニの会場で食べながら、周りの子どもの様子を感じたり、互いの会話が自然に行えるよう環境設定をした。</p>		<p>・育児休暇中の父親が現在行っている家事を復職後に同様にできるかという点と難しく、母親に家事・育児の負担をかけてしまうことへの不安を吐露することができた。</p> <p>・絵本の読み聞かせにより、夫婦での育児イメージ、子どもの目線に立った感じ方、家族のコミュニケーションの温かさ等を感じていた。</p> <p>・一方で育児休暇取得後、復職した父親の生活の様子を聞ける場面があり、夫婦のコミュニケーションや思いやりが大切であることを感じていた。</p> <p>・育児についてもっと知りたいと意欲が感じられた。</p>			<p>・参加意欲はあるが勤務の都合で参加できなかったと感じる参加者の声を聞き、開催日を父親が参加しやすい設定を検討する。</p> <p>・参加者は、家事、育児を積極的にしている父親が多いが、ねぎらいや情報提供、仕事とのバランスのとり方など、他の父親がどのようにしているのか知れる機会が必要。</p> <p>・母親と同様に父親も育児の知識や技術を学びたい気持ちがあり、今後も父親支援が必要となってくる。</p>		



アウトリーチ型支援事業

<目的>

子どもが育つ環境がウェルビーイングであるよう環境が整えられたり、子育てについての知識や技術を習得し人格形成の時期に必要な愛着形成が促されたり、個から他者との関係構築により子どもの育つ社会が広がることを目的とする。

<概要・方法>

1)実施期間：令和6年7月～令和7年2月

2)実施頻度：1回/月、1～2時間/回（利用者に負担のない滞在時間）

3)実施内容：①家庭訪問による養育環境の改善支援（室内外のゴミの片づけのサポート）

②外出できない乳幼児期の子育て親子への育児支援（子どもの育ちに必要な絵本やおもちゃなどをツールとした子どもへのかかわり、育児相談）

③集団学習が合わない児童への支援（ボードゲーム・工作・手芸・図書などをツールとした子どもへのかかわり）

*家庭訪問で情報提供を行うが、②③については、かかわりの場を個別で来所したい希望があれば、個別対応でその時間を設けるよう融通を利かせる。

④ハッピー♥サイクル登録者への品物配達を行い、親子の様子を把握し、困りごとを聴き、必要な情報提供を行う。必要に応じて関連機関へ繋ぐ。

⑤子ども食堂（藤子食堂など）へ訪問し利用者とのコミュニケーションを図りながら、困りごとを把握し、①～⑤の事情を行う。

⑥①～⑤の親子がにっこりん☺️ミニや地域子育て支援拠点事業などの情報が得られ、利用ができるよう懸け橋となる。（個の繋がりから小集団の繋がりができるよう安心感を持って利用ができるよう伴走型支援を行う。）

<第1回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		対応組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.7.29	藤野会館/藤子食堂(子ども食堂)	6	6	6	0	12	1
13:00~14:30							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
・にっこりん☺️ミニ、ハッ		・異年齢の子どもたち同士の			・単発で短時間のアウトリーチでは、子		

<p>ピー♥サイクルのチラシの設置依頼。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハッピー♥サイクルの品物提供（レジャーシート・子ども用マスク・クリアファイル持参）。 ・わなげ・ボードゲームで年少～小4の子どもたちとかかわる。 	<p>橋渡しができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハッピー♥サイクルの品物を提供することができた。 ・母親に年少児ができることを伝えたり、転入後の様子を聴くことができた。 ・地域行事にを出店するお子さんから地域の行事の案内をしてもらえた。 	<p>子どもの困りごとを聴き取るだけの関係づくりが困難である為、頻度を増やす必要がある。</p>
---	---	--



<第2回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		対応組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.8.19	藤野会館/藤子食堂(子ども食堂)	10	4	6	0	10	1
11:00~13:30							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
・折り紙工作・おえかき・クッションマット・ブルーシートを持参し遊びの環境設定の工夫をし看板表示した。		・レゴブロックコーナーにクッションマットを敷くことで、子どもが落ち着いてブロックをすることができた。			・参加したい子どもが参加しやすいように机の配置など環境設定を考える必要がある。 ・工作ツールがもう一つあると、子ども		

<ul style="list-style-type: none"> ・長机を工作用に出してもらいそれを囲んで作成できた。 ・クレヨンのひっかきアートや切り紙など掲示していることを見える化し興味関心を持てるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙コーナーでは、小さなコミュニティができ、同じ小学校ではあるが学年が異なり知らない子ども同士が話をするきっかけとなった。 ・工作のツールを使い子どもとのコミュニケーションを図ることができた。クレヨンの作品を大切に持ち帰りたいと思う子どもがいた。 ・ハッピー♥サイクルの公式アカウントに再登録しておらず情報が届かないという利用者があり、再登録へ繋ぐことができた。 ・子育て支援事業で気になっていた利用者と出会え、様子を知ることができた。 	<p>が一人でも楽しめる上、支援者も関係づくりがしやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアで参加している高校生、保護者、大人へ目が向けられず繋がりが手薄となった為、コミュニケーションを図るよう心がける。
---	---	---



<第回 3>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.9.9	本荘地区公民館和室	1	1	1	0	2	2
17:00~18:30		実施内容		活動の成果		今後の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・国語の本の音読。 ・計算カード。 ・絵本の読み聞かせと感想文。 ・将棋。 		<ul style="list-style-type: none"> ・母は、宿題を見ることへのストレスから解放され、児の頑張っている姿を見ることができた。 ・児は静かな学習環境で宿題をすることができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本日することを見える化し、支援員と利用者の両方が分かるようにしておく。 			



<第4回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.9.28	藤野会館/藤 子食堂(子ども も食堂)	7	8	9	0	17	2
13:00~14:30							
実施内容		活動の成果		今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・マット・ブルーシートの貸し出し・かき氷の氷の提供。 ・折り紙・おえかき・毛糸や小枝を持参。 ・毛糸と小枝のオブジェづくりのコーナー設置。 		<ul style="list-style-type: none"> ・毛糸と小枝のオブジェコーナーを通じて参加者同士つながりコミュニケーションを図る機会となった。 ・町内への移住者へ当団体の子育て支援情報を情報提供することができた。 ・子ども同士のトラブルについて周りの大人がそれぞれの子どもに対して対応することができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧なかかわりが必要だと感じられるお子さんの情報が少なく、必要な支援につながっているのか気になった。その母親がいつものことだからと言い、更に気になりそのお子さんが必要な支援と繋がっているのか確認して行く必要がある。 ・小学生に毛糸の鎖網を提供してみたが難しそうであり、小学生がチャレンジしやすいものを提供する必要がある。 			



<第5回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.10.20	岡山市操山公 民館/多胎児 支援の会おて て交流会	12	19	25	0	44	1
9:00~12:00							
実施内容		活動の成果		今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・岡山多胎サークルおてての交流会へ参加。 ・町内の双胎妊娠の妊婦を本会へ繋ぐ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・これから購入予定である双子用のベビーカーを見せてもらい実際に触れることができ、イメージを膨らませる 		<ul style="list-style-type: none"> ・双胎妊婦が出産後の大変な時期や外出時に助けが求められ情報が得られる本会と繋がりつつ育児ができるよう経過を見守る必要がある。 			

<ul style="list-style-type: none"> ・和気子育て支援センターを利用する岡山市内の双子を育児中の母親とコミュニケーションを取った。 ・和気子育て支援センターの情報提供を行った。 	<p>多胎妊婦夫婦の姿があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が話をしている間、本会で用意されているおもちゃや絵本を活用し子どもたちに遊びを提供することができた。 ・団体が本会与顔の見える関係づくりをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当団体も本会与継続的に繋がるよう情報共有等を通じて連絡を取るよう心がける必要がある。
--	--	---



<第6回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.11.1	団体事務所	1	0	2	0	2	1
17:00~18:30		実施内容		活動の成果		今後の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・読書。 ・チェーンリング・ままごと・毛糸の手仕事・粘土。 ・おやつ。 ・宿題は持って来ていたがする時間がなかった。 ・ハッピー♥サイクルの品物配布。 		<ul style="list-style-type: none"> ・最初に自分の好きな本を選び読書をし、静かな時間が流れた。 ・毛糸を切る作業やチェーンリングを繋ぐ作業に集中していた。 ・学習支援はできにくかったが、子どもの居場所として過ごせていた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境を確保する本事業であったが、急に2人の小学生に対応することになり、スタッフ1人態勢の為、慣れた施設で行い、遊びの環境が沢山ある部屋を利用することになり、宿題をすることができなかった。母も明日が土曜日であり宿題を強制的にしなくてもよいとの考えであった。 			

<第7回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.11.7	和気町	1	1	1	0	1	2
9:00-11:30		実施内容		活動の成果		今後の課題	

<ul style="list-style-type: none"> ・庭の草木の剪定。 ・庭のゴミ分別処理。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庭の片づけで本人が気になっているが手が届かない所に手が回った。 ・第4子の育児で困っていることや母自身の生き立ちについて話して頂ける場となった。 ・養育環境を一部ではあるが整えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・剪定した草枝が枯れるのを待ってゴミ袋へ居れる為の日程調整が必要。 ・母の育児の困り感の軽減のため経過を把握していくことが必要。
---	---	---

<第8回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.12.7	和気町宮田コミュニティハウス	15	15	28	0	43	2
9:30~11:30							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会でのボードゲームを通じて子どもが集まって楽しむ機会の提供。 		<ul style="list-style-type: none"> ・事前に会の役員さんがボードゲームのルールを学んだり、打合せをしたりしていただき、一緒にその時間を作ることができた。 ・子どもたちの遊ぶ意欲につながり、子どもからの希望があった為今後も計画したいと役員さんが考えられている。 ・低学年の子どもに付き添う保護者が一緒に楽しみ、家族で楽しむツールとして参考にさせていただいた。 ・低学年の子どもたちの中で年下の子へ思いやりのある場面が見られ子どもたちのそういう思いに触れることができた。 			<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の試合などで参加できなかった子どもにも体験させてあげたいという保護者の思いがあった為、日時を調整して開催できる方法を探る。 ・地域の子どもたちと繋がれる機会となり、にっこりん😊ミニに参加している子どもの顔があり、この機会を逃さず子どもとの関係を深めていきたい。 		



<第



① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.12.13	和気町	1	1	0	0	1	1
16:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅に引きこもっている成人男性が出かけるきっかけづくりを行う。 ・にっこりん☺ミニの準備ボランティアで力を貸してほしいと手紙を書き自宅へ訪問した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・にっこりん☺ミニの当日、本人が来所し、準備を手伝い帰宅。 ・翌日本人へ電話し感想を聞く。疲れてはいない。緊張した。次回も予定が無ければ来ると。 			<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回1時間のボランティアに継続して来所し、緩やかに繋がる。 		

<第10回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.12.18	備前市	1	1	1	0	2	1
19:00~20:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・ハッピー♥サイクル事業の米5kgを配達。 ・近況をうかがう。 ・紙おしめから尿が漏れる程排尿していても交換されていない状況。 ・3歳までは家庭保育をする予定。 		<ul style="list-style-type: none"> ・車を持っていない為、来所での品物受け取りが出来ず配達をすると喜ばれた。 ・久々にお会いすることで、これまでの子どもの様子や母のことを沢山お聴きすることが出来た。 ・子ども(1歳6か月)の紙おしめから尿が漏れる程、排尿しているが交換していない。そういった育児をされていることが分かった。 ・話したいことが沢山あるとのことで、近所の地域子育て支援拠点わくわくる一むで待ち合わせて伺うことに同意された。 			<ul style="list-style-type: none"> ・近所の地域子育て支援拠点で他者の子育てに触れることが母の育児感を広げるきっかけとなる。よって、わくわくる一むへ母子が繋がるよう調整していく必要がある。 ・後日スケジュール調整の為、連絡を入れた。 		

<第11回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R6.12.24	和気町	1	1	1	0	2	1
13:30~15:30							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問にて室内のゴミを片付けた。 450袋 10個分程度集めた。 		<ul style="list-style-type: none"> 部屋のゴミが少し片付き、畳が見えるようになった。 母は、片付けをしながら、これまでのしんどかった思いなど話された。 小学生が片づけを手伝った。 母は、この勢いに任せて片づけたいと言う。 			<ul style="list-style-type: none"> 前回詰めたごみ袋がそのまま捨てられておらず、外の倉庫に入っているが、有料ごみ袋がもろくなり破れてしまう為、捨てられない状態。 外にあるごみの処理、奥の室内にあるゴミの片づけを計画的にする必要があるが、本人一人では難しい。 本人の気持ちが片づけたい気持ちになっている為、その気持ちに添って片づけの支援が必要となる。 行政、社協の協力を得ながら継続性をもって行う必要がある。 		

<第12回>

① 事業名 アウトリーチ型支援事業

開催日	場所	参加者数					
		参加組数	大人	子ども	ボランティア	合計	スタッフ
R7.1.23	和気町	1	1	0	3	4	2
9:00~12:00							
実施内容		活動の成果			今後の課題		
<ul style="list-style-type: none"> 庭にある家庭ゴミの仕分け、袋詰め。 和気町社会福祉協議会ボランティアによる焼却場へ 		<ul style="list-style-type: none"> 軽トラ5杯分の家庭ゴミを処分することが出来、母親一人ではどうにもならない養育環境の改善が図れた。 			<ul style="list-style-type: none"> 養育環境を改善するための行政や福祉のサービスの限界があると考えるが、今回、和気町社会福祉協議会の協力が得られ、こういったケアの実績を積めるよう 		

<p>のピストン輸送。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成人の娘が前日に自室のゴミを捨てる準備をしており、片づけをする行動につながった。 ・母自身が片づけようというやる気につながった。 ・母の困りごとを相談する機会となった。 ・社会福祉協議会の理解と協力が得られた。 ・アウトリーチで厳しい養育環境で育っていることが分かり、目に見える子どもの様子だけで子どものことを判断するのではなく、更に掘り下げて子どものことを考える視点を持つことに気が付かされた。 	<p>協力要請をしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のゴミ処分がこの家庭にとって、前向きでやる気が湧くことに繋がることを期待するが、片づける習慣が身についていないと、同様のことを繰り返すことが予測される。養育環境の清潔が保たれるよう時々気かけ声をかけていく必要がある。
-----------------	---	---

～事業を終えて～

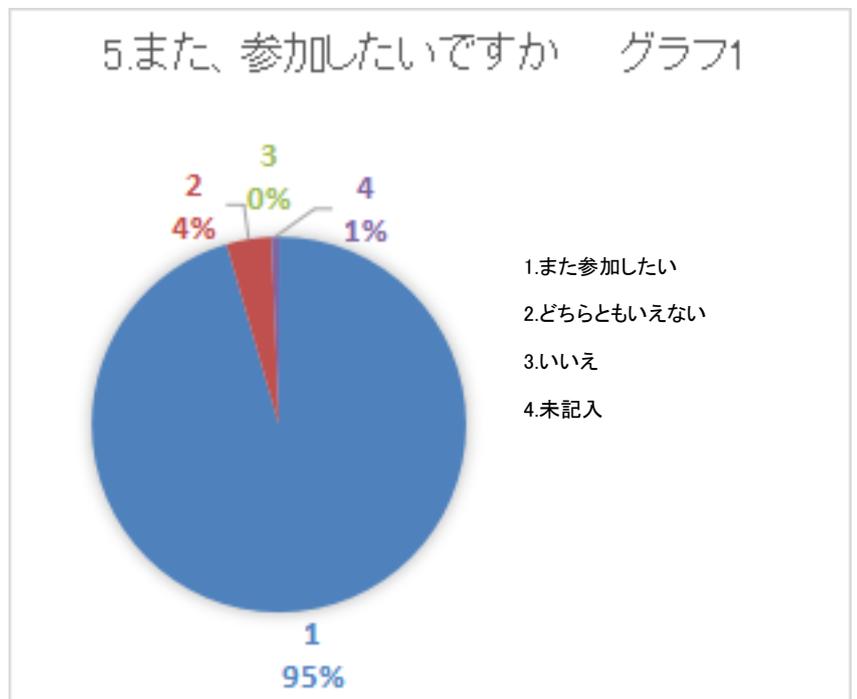
○事業実施による効果

(1) 参加者への効果

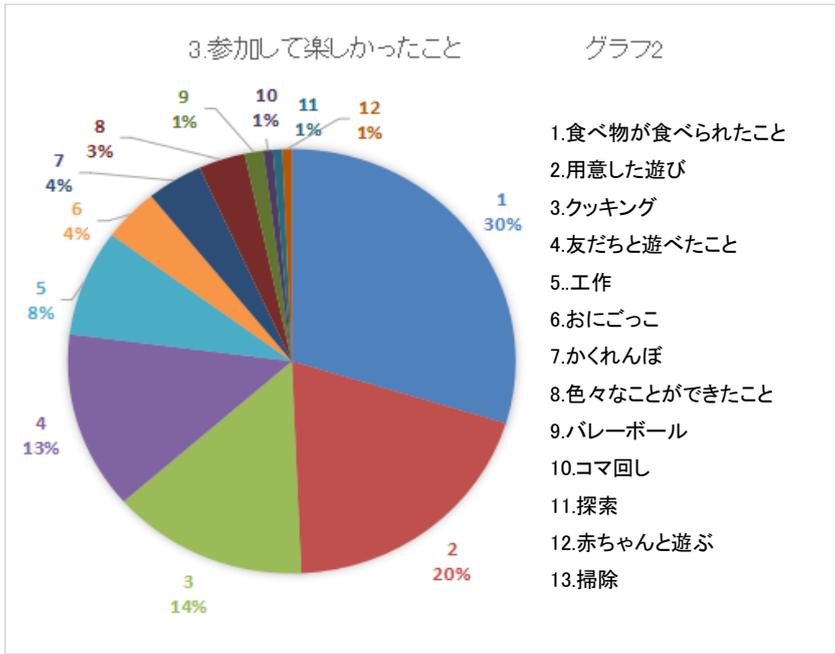
●にっこりん😊ミニに参加した子どもにアンケートを実施した。回答者年齢は、幼児（母が代筆）、小学生、中学生、その他（高校生以外の18歳未満）であった。子ども参加人数244人+α、有効回答数155件であった。

アンケート内容は、1.性別2.年齢3.「参加して楽しかったこと（自由記述）」4.「参加して困ったこと（自由記述）」5.「また、参加したいか」6.「にっこりん😊ミニでしたいこと（自由記述）」7.「そのほか言いたいこと（自由記述）」の7項目とした。

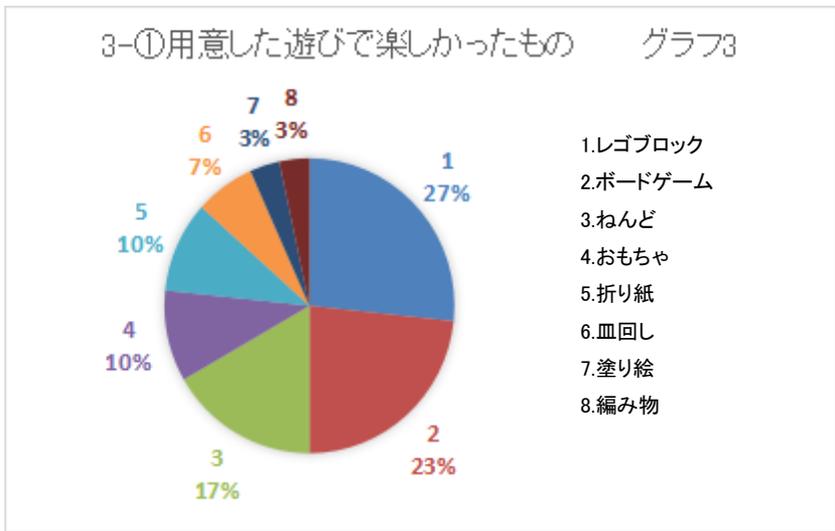
アンケート5.「また、参加したいか」について、「また参加したい」95%、「どちらともいえない」4%、「いいえ」0%であった。このことから、また参加したいと感じている子どもたちは、参加したことに満足感を得ていると考えられる。



3. 「参加して楽しかったこと（自由記述）」を整理するとグラフ2の結果が得られた。多数の回答が得られたが印象的なものを紹介する。①食べながらみんなとお話しできたこと（小3女子）②みんなでホットケーキを食べてめちゃおいしかった（小4男子）③色々な人と交流ができる（小3男子）④学童で会えない子と遊べた（小3男子）⑤勉強や学習ができて遊べるから楽しかった（小4男子）⑥ゆっくりママと遊べて嬉しかった（小2男子）などの記述があった。共食や友だちと過ごすことの良さを子どもが感じていると考える。学習コーナーを設け、宿題をみんなでする姿があった。宿題は、ここでして帰るという意欲のある小学生が複数いた。



また、にっこりん😊ミニが子どもの居場所として遊びを通じて様々な経験ができるよう環境設定に配慮した。3. 「参加して楽しかったこと」の第2位にある「2. 用意した遊び」で、楽しかった遊びの割合をグラフに3-①にまとめた。レゴブロック、ボードゲーム、ボーリングなどを楽しんだり、絵具、粘土、毛糸、ハギレ等を用意し自由に制作できたりする環境設定を行った。子どもにとって、選んで好きなことができる環境を作ることができていたと考える。



4. 「参加して困ったこと（自由記述）」では、6件の回答が得られた。①かき氷（小3女兒）②男子とのケンカ（小3女兒）③帰りたくない（小3女子）④ひまだった（高校生以外の18歳未満女子）⑤工作のハケが少なかった⑥こけてひざをけがした（小3男児）①②⑤⑥については、支援者に声をかけることで解決したのか、困ったままであったのかが不明である。③④については、子どもに支援者が気づけておらず話を聴くことができていなかった。

6. 「にっこりん😊ミニでしたいこと（自由記述）」では、多数の回答が得られた。整理すると5項目に分けられた。①アクティブな遊び（かくれんぼ、おにごっこ、ドッチボール）②室内での遊び（将棋、ボードゲーム、ゲーム、ヨーヨー）③創作活動（工作、絵具、ぬいもの）④料理（クッキー、パンケーキ、アイス、フルーツパフェなど）⑤食べたいもの？（ステーキ、かき氷、ジュース）であった。「子どもがしたいこと」を子どもが主体的に取り組める環境を支援者として考える必要がある。

7. 「そのほか言いたいこと（自由記述）」では、10件の回答が得られた。①ジャニーズのファイルがほしい5件（高校生以外の18歳未満女子）②にっこりん楽しい（小1女子）③食事のおかわり（小2女子）④ずっと来たい（小1女子）⑤こういう場所があって子ども同士集えて安全な環境ありがたい（幼児、小1の母）⑥放課後でなかなか沢山のお友だちと会える機会が無いので嬉しい（小2女兒の母）②④⑤⑥は、肯定的な意見と考えら

れる。③は食事のおかわりをしたかったのか、おかわりができたのか判断が付きにくい、前者の方であれば、子どもが気持ちを伝えやすい大人の雰囲気や対応が必要となる。

全体を通して、にっこりん😊ミニに参加した子どもたちは、学校以外の場所で友だちと遊べたり宿題をしたりすることで充実した時間を過ごしている。また、お腹を空かせて来所する子どもたちが多く、おにぎり、ホットケーキ、餅、カレーライスなどで空腹を満たしていた。お腹を満たし、好きなことをして過ごすことで心身共に安定している様子がうかがえたことから、子どもにとってのにっこりん😊ミニのような居場所や子ども食堂は、必要不可欠なものであると考える。

●パパの時間では、大人の料理からの取り分け離乳食やおやつ、餅のアレンジレシピなどゲストティーチャーとして和気町栄養士を迎え食に関する学びが得られ、にっこりん😊ミニの子どもたちと調理し共食することでその楽しさを感じられていた。将来、我が子とクッキングをすることを楽しみに思える父親であった。

●父親同士が育児や仕事についての思いを共有することで、もっと話したい、集まりたいという意欲に繋がっていた。絵本・子どもの遊びなどに父親の興味関心が高く熱心に聞いていた。

●アウトリーチでは、他団体さんの活動へ出向き参加者との関係づくりやニーズの把握に務めた。それにより、子ども食堂の環境設定の提案を行い落ち着いて過ごせる空間づくりや遊びを紹介できた。多胎児育児支援サークル交流会へ多胎妊婦夫婦を同行支援し多胎児を子育て中の夫婦から話をこの夫婦が聞くことができた。ゴミの分別やゴミ出しの手伝いにより、養育環境の改善が図れ自宅で子どもが過ごしやすくなった。母が片づけることに前向きな気持ちになっていた。

●引きこもりがちな青年に手紙を出し、にっこりん😊ミニの会場設営のボランティアに誘った。1時間だけの約束で少ない人数のスタッフと共に準備の手伝いをする為に来所し始めた。

(2) 地域等への効果

●本荘小学校へにっこりん😊ミニのチラシを毎月配布することで、小学生への認知度が高まった。また、小学校職員さんと顔が分かる関係ができつつあり、小学校での人権研修講演会の聴講の誘いを受けることができた。

●パパの時間では、町内外の父親の参加があり、地域を超えて本事業の案内ができ、興味関心がある父親へ情報が届いていた。(パパの時間公式アカウント登録者8人、赤磐市、備前市、岡山市、和気町)

●町内外のボランティアさんや主任児童委員さんが協力してくださる機会を得ることができた。

そういった面では、地域へにっこりん😊ミニが浸透し始めているように感じる。

●子どもやその保護者の困りごとをお聞きし関係機関と調整を図ることができる場面があった。

養育環境の改善について和気町社会福祉協議会の協力が得られ、子育て家庭への支援実績に繋がった。

○今後の課題・展開

●にっこりん😊ミニ：平均35人と多数の子どもの利用があり、7回の実施では支援者と子どもがお互いに名前と顔が分かる関係を作るまでに到達できにくかった。継続性のある事業を実施することで信頼関係を結ぶことができ、子どもが安心して過ごせる居場所となれると考える。よって、安定した運営を図れるよう事業費の確保や工夫を考える。

●にっこりん😊ミニ、パパの時間の運営で進行表を作成し役割分担をしていたが、支援者やボランティアさんの間で当日の打合せが揃ってできにくく意思の疎通を図ることができにくかったため、していることの目的や留意点をみんなで確認することが必要である。

●パパの時間：父親は家事・育児について興味関心が高く・学びたい気持ちを持っている為、今回の開催日時を平日の午後に設定したが、土曜日の午前中に設定し参加者見込み数を4~5人に増やし互いの情報交換に深みを増して行きたい。安定した運営を図れるよう事業費の確保や工夫を考える。

●アウトリーチ型支援事業：本事業の①~⑥は、細かなニーズに合わせたオーダーメイドの子育て支援が展

開できる。ゆるぎない目的を念頭に置き継続実施することが今後も必要となる。また、一方向での見立てではなく、関連機関と連携を図り対象にとってのあるべき姿に向かって伴走できるよう細かな連絡調整が必要となる。

○まとめ

- にっこりん😊ミニでは、子どもが自分らしく安心して過ごせる居場所として利用し始めている。支援者と子どもの信頼関係の構築には時間が必要となる為、本事業の目標を達成するためには継続的な運営が必要となる。
- パパの時間では、家庭や子育ての思いを共有することで父親が孤独ではないことを感じられていた。家庭で行っている家事・育児が多く、お互いによくしていると認める言葉をかけることで自信が持っていた。にっこりん😊ミニの小学生と共に過ごすことで、将来の子ども像や父親のかかわりのイメージが持っていた。
- アウトリーチでは、子どもが育つ環境が整うことで子どもが安心して暮らせる家庭環境を作ることが少しできた。また、個々に必要な団体や活動場所へ大人と子どもを繋ぐことで、個から他者との関係構築により子どもの育つ社会が広がることへの手助けができた。今後もオーダーメイドの子育て支援が必要不可欠である。